

耳鼻咽喉科

(1) 担当教員

峯田周幸（教授）、水田邦博（准教授）、細川誠二（講師）、
大和谷崇（助教）、三澤清（助教）、高橋吾郎（助教）、杉山健一（助教）

(2) 実習内容

①GIO（一般教授目標）

将来、いずれの分野の医師になっても、患者の耳鼻咽喉科的問題を的確に捉え、その疾患に対して、適切な初期治療が行えるようになるため、問題解決能力・基本的診察技術などの臨床能力を、実習を通して学ぶ。

他は、共通項目を参照のこと。

②SBO（個別行動目標）

実習終了時には以下のことができることが期待される。

- 1) 患青の耳鼻咽喉科的問題に関し、適切に病歴を患者より聴取できる。
- 2) プライマリ・ケアに必要な耳・鼻・咽頭の局所所見をとることができる。
- 3) 頸部・甲状腺の触診ができる。
- 4) 聴力検査・眼振検査の結果を理解できる。
- 5) 単純 X 線・CT・MRI などの基本的画像の典型的異常が判読できる。
- 6) 耳鼻咽喉科手術で簡単な助手ができる。
- 7) 耳鼻咽喉科に consult する必要性が判断できる。

(3) 評価基準

- ① 出席状況
- ② 学習態度
- ③ 口頭試問
- ④ レポート提出

(4) 医療行為の水準と実施項目

	水準Ⅰ 指導医の指導・監視のもと に実施が許容されるもの	水準Ⅱ 状況によって指導医の指 導・監視のもとに実施が許 容されるもの	水準Ⅲ 原則として指導医の実施 の介助または見学にとど めるもの
診 察	<ul style="list-style-type: none"> ・病歴聴取 ・耳鏡、鼻鏡、舌圧子、喉頭鏡等による診察 ・全身の視診・触診・打診 ・聴診器・血圧計などによる診察 		
検 査	<ul style="list-style-type: none"> ・純音聴力検査 ・ティンパノグラム ・注視、頭位、頭位変換 眼振検査・眼球運動検査 ・神経学的検査 ・味覚・嗅覚検査 ・抹消静脈血採血 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴性脳幹反応検査 ・眼球運動の記録 ・温度刺激検査 ・下咽頭食道造影 	<ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡検査 ・生検 ・嚢胞・膿瘍穿刺
治 療	(処置) <ul style="list-style-type: none"> ・消毒・ガーゼ交換 ・導尿・浣腸 ・気管内吸引 ・ネブライザー (看護) <ul style="list-style-type: none"> ・体位交換・患者移送など (外科的処置) ・皮膚縫合・止血・抜糸など 	<ul style="list-style-type: none"> ・創傷処置 ・胃管挿入 ・皮内・皮下・筋肉・静脈 注射 ・手術助手(皮膚切開・縫合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・局所麻酔 ・高度な手術の助手 ・中心静脈栄養 ・血管確保(静脈カテーテ ル)
救 急	<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサインチェック ・酸素投与(マスク) ・人工呼吸 ・モニター装置装着 ・点滴準備 ・止血 	<ul style="list-style-type: none"> ・気道確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・気管内挿管 ・気管切開
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・カルテ記載 ・健康教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者への簡単な病状説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族への病状説明